

緑の風 NEWS

JR東労組



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union 2023年2月27日 No.115

JR東日本会社による懲罰的日勤教育、パワハラを助長する企業体質を許さず、 組合員に寄り添い、組合員の早期職場復帰、職場からの安全風土を再確立する特別決議

宇都宮運輸区で、2022年11月12日「信号確認を行わずに速度超過」という事象が発生した。一步間違えれば大惨事になる事象であり、労働組合として徹底した原因究明のもと、再発防止に取り組んで行く決意である。しかし会社は、ミスをしてしまった組合員に対し、11月13日から12月31日まで乗務停止と原因究明とは関係の無い作業をひたすら繰り返し、会社にテコ入れをされた決意表明を書かされるなど先の見えない長期にわたる日勤教育を行った。1月からは二人乗務を開始させたが、恫喝的・威圧的な添乗と人権侵害・人間破壊の面談が行われ、精神的に追い込まれ、死を考えるほどのうつ病により医療保護入院を通告され今も苦しんでいる。いかなる理由があろうとも、本人を追い込み、苦しめる「日勤教育」は許すことができない。

長期にわたる懲罰的日勤教育が行われていたにも関わらず、宇都宮支部から医療保護入院まで追いつめられる組合員を出してしまった。その事象に気付く事が出来ず、宇都宮支部として本人や家族に寄り添い守る事が出来なかった。12月5日に国府津運輸区において、同種の事象が発生していたが、指導担当に組合員がいる事の甘えから、この事象に対して問題と捉えることから目をそむけてしまった。さらに問題なのは、その後速度超過を発生させてしまった別の宇都宮運輸区の運転士は、今回の日勤教育が頭をよぎり、報告をためらったと申告している事である。

日勤教育については、JR 西日本福知山線脱線事故に関する国土交通省航空・鉄道事故調査委員会の事故調査報告において「原因」として「事故・事象を起こした運転士へのペナルティである日勤教育や懲戒処分等を行い、報告を怠り又は虚偽報告を行ったものへの処分等を行うという運転士管理方法が関与した可能性が考えられる。」と指摘された。仲間の命が「日勤教育」によって奪われた怒りと悔しさを胸にたたかった、仲間のたたかひがあった事は周知の事実である。私たちはJR西労の仲間のたたかひの教訓をいかし、「日勤教育」によって仲間の命、利用するお客様の命が奪われることが決してないように、たたかひ続けていく。

また会社は、安全衛生委員会において、今回の事象を付議したところ、「この場で話す内容ではない。安全問題ではないから話さない」と一蹴し受け付けなかった。会社の考える安全とは何なのか問いただしたい。

JR東労組がつくりあげてきた、ミスをしたら速やかに正しい報告をする安全風土が、報告をした組合員を見せしめにするような日勤教育を行い、他の組合員に対し恐怖を植え付け、脱退した者には事故を見過ごすかのような対応で、宇都宮運輸区過半数割れを目論む、明らかな組織破壊攻撃である。

私たち宇都宮支部は、同じ過ちを発生させないために、些細な事象が発生しても速やかに情報共有し、支部として原因究明出来る風土を根付かせるたたかひを通じて本人に寄り添った乗務復帰へのフォロー、分会と共に「私にとっての東労組」を確立し安全で安心して働ける職場を全組合員一丸となってつくりだす決意である。

以上、決議する。

**決して“宇都宮運輸区で起きていること”と他人事にするのではなく、組合員を守り、安全を守るため、この決議を読み合わせましょう。
そして、懲罰的日勤教育、パワハラを許さず、安全で安心して働ける職場を共につくり出して、職場から安全風土を再確立させていこう！**

2023年2月25日
東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部 宇都宮支部
第38回定期委員会